



# 支える「心」を考える①

## 苦しむ子どものそばに居る

星の会（不登校を考える親の会）代表  
教育・不登校研究所「明日が見える」所長

加嶋文哉

星の会ができた25年前に比べて不登校の理解は進みました。学習指導要領にまで、「状況によっては休養（学校を休む）が必要」と書かれています。支援機関も「しばらく様子を見ましょう」と言うようになりました。「休ませる」「無理をさせない」ことは大切ですが、「支える」がマニュアル化するのは良くありません。「支える」とはということなのかを連載（7回予定）で考えていきます。

### ■「休んだら良いよ」の言葉

娘が小学生（高学年）の時、不登校をしました。部屋に行き、声をかけました。学校に連絡をするためです。

「今日はどうする？学校に行くなら、起きんと間に合わんよ。」と、布団をかぶっている娘に言いました。布団の中から「お腹が痛い。」と消えそうな声が返ってきました。「わかった。今日は、ゆっくり休んだら良いよ。」と、声をかけました。

部屋を出ようとした時、娘が起きて言いました。「じゃあ、このまま学校に行けなかったら私はどうなるん。6年生になっても学校に行けんかもしれんよ。そしたら中学校にも行けんし、高校にも行けんかもしれん。そしたら、私の将来はどうなるん。簡単に『休んで良いよ』とか言わんで。」その後、また布団をかぶってしまいました。

娘の言動に、私は言葉を失いました。お腹が痛いのは学校に行こうとするからであり、学校

を休ませることが娘の心を楽にしていると思っていたからです。

### ■誰を楽にしたかったか

「お腹が痛い」という弱々しい声を聞き、早く楽にしてあげたいと思いました。しかし、「今日は、ゆっくり休んだら良いよ」の言葉は、娘の心を「支える」ことにはなりません。

今ふり返ってみると、その言葉は、娘のためではなくて自分のためにかけた言葉だったと思います。目の前で苦しそうにしているわが子を見るのがつらく、「問題」を早く解決することで自分が楽になろうとしたように思えます。

この時の娘は、「学校に行くのは苦しい。かといって休むのもつらい。どうすることもできない苦しい状況」だったと思います。

学校に行くのが苦しいのであれば、ゆっくりと休ませてあげることが必要です。学校に行きたいのにいろいろと困難があるから困っているのであれば、それを解決する支援が必要です。

しかし、ほとんどの子どもが「どうすることもできず、生きていることが苦しい」状態にあります。そんな時に、「大丈夫、学校に行かなくても。」という言葉は、親が自分自身に言って安心しようとしているのであって、本人には「支え」にならないでしょう。少なくとも、その時の娘は自分で納得をしたかったようです。

### ■子どもを支えるとは

布団をかぶっている娘の横に座り、背中あたりをさすりました。泣いているのが布団を通してわかりました。何も言えず、何もできない自

## 星の会が「大分県人権尊重社会づくり推進功労賞」を受賞

表彰の団体名は「星の会」でしたが、親の会の活動が、人権尊重の社会づくりにつながることを評価していただいた受賞です。それは、不登校にとどまりません。精神・発達障がい・ひきこもり・非行等々の親の会（自助グループ）にも言えることです。



大分合同新聞朝刊 2019年3月5日

分が情けなくて涙が出てきました。「学校なんかなければ良い」と思いました。（その当時、小学校の教師をしていましたが…）

「このまま学校に行こうとしたら、お前の心が壊れるぞ。今日は、とにかく休もう。」と声をかけると、納得してくれました。

子どもが苦しんでいるからといって、その子どもが考える「問題」を、親（大人）が勝手に取り上げて解決してあげるのには「支える」ことではありません。理解をして「何かをしてあげる」よりも、揺れながらも「そばに居てあげる」ことで、子どもは「問題」と向きあい、自分なりの答を見つけるようです。

ホルトホールのプログラム vol.1  
新緑コンサート **枝次竜明カルテット**

今年で6年目となる新緑コンサート。ジャズトランペット奏者の枝次竜明が、新緑の季節にぴったりの爽やかで、力強い音色をお贈りします。ジャズのスタンダードナンバーからオリジナル楽曲まで、若きトランペッターの現在をカルテット編成でお届けいたします。

日時 **5月25日(土)** 開場13:30 開演14:00

会場 **ホルトホール 市民ホール 小ホール(1F)** チケット **無料** (全席自由) ※対象 一般

定員 **202名** (当日先着) ※ホールとも優先入場有 (主催)J:COM ホルトホール大分 開場15分前までにお越しください。以後、一般整理。

お問い合わせ 総務事務局 市民ホール担当 TEL 097-576-8877

枝次竜明君は、かつて不登校をしていた青年です。小学生の時は魚が好きで、釣りなどに夢中になっていました。今は、トランペットに夢中です。先日は、テレビでその様子が放映されました。竜明君を見ていると、「今を生きる」かがやきを感じます。コンサートを聴きに行ってみませんか。

寄付のお礼 園田さん(大分市在住)より、ご寄付をいただきました。ありがとうございました。

**おねがい**

原稿をお寄せ下さい

- 感想・体験 ●伝えたい情報
- その他不登校に関すること

<メール>toiawase@hoshinokai.net  
<FAX> 097-576-9489

**ご寄付・寄贈のお願い**

活動を継続・発展させていくために寄付や切手・書き損じハガキ等の寄贈をお願いしています。尚、寄付・寄贈していただいた方は会報で紹介させていただきます。

郵便振替

原稿は、FAXかメールでお寄せ下さい。掲載の際に匿名・インシヤルなど希望する場合は、そのことを書き添えて下さい。

<口座記号番号> 01710-8-142651  
<加入者名> 不登校を考える星の会

**5月の例会予定**

- 昼の大分例会…都合でお休みです
- 別府例会…都合でお休みです
- 豊後大野例会…5月9日(木)19:00~21:30
- 津久見例会…5月10日(金)19:30~22:00
- 夜の大分例会…5月17日(金)19:00~21:30
- 由布例会…5月23日(木)19:30~21:30

会報発送のボランティアを募集しています。協力していただける方は河野さんまでご連絡ください。

**会報発送作業**

- 日時：4月25日(木)14:00~
- 場所：明治明野公民館
- お尋ねは河野さん (080-5272-9360) まで